

フィリピンで廃油の回収からバイオディーゼル 製造・普及のシステムづくり

廃油を原料とするバイオディーゼルにより廃棄物削減と大気汚染改善を目指す

国際協力機構（JICA）は3月13日、東京都豊島区のバイオマスジャパン株式会社（内田勝巳代表取締役）と埼玉県鴻巣市の株式会社篠崎運送倉庫（篠崎晃市代表取締役）による、「廃食油回収システムの構築及びバイオディーゼルの製造と普及による環境改善に関する案件化調査」を「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として採択しました。



バイオディーゼルプラントの様子



バイオディーゼル製造の過程

提案企業二社は廃食油の回収装置とノウハウ及び廃食油からバイオディーゼル燃料を製造する技術を持っております。これらを組合せ、廃食油の回収からバイオディーゼル燃料の活用までの一貫したシステムをフィリピン（ダバオ市）に構築するための調査を行います。このシステムにより、エネルギー自給率の向上と、同国で深刻化する都市廃棄物の処理能力向上と健康被害を引き起こす大気汚染の改善が期待されます。

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術を ODA 事業に活用するための 情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012 年度から実施されており、2014 年度第 2 回目は昨年 11 月に公示を行いました。129 件の応募のうち 25 件が採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 国内事業部中小企業支援調査課 川崎（案件担当）、野村（広報担当）

TEL 03-5226-9283 e-mail : pdtfs@jica.go.jp